

I. 実施概要

(ア)調査の目的

本調査は、内部質保証ならびに自己点検・評価の一環として、神戸女子短期大学(以下、本学とする)の現状・特徴を把握し、マーケティングやエンrollment・マネジメントに活用することを目的とする。

(イ)調査対象

2021年10月1日現在、本学全学科(総合生活・食物栄養・幼児教育)に在籍する全学生399名を対象とした。

1年次生 163名

2年次生 236名

(ウ)調査方法

一般財団法人 短期大学基準協会が実施している『短期大学生調査(Tandaiseichosa)』を用いた。本学においては、平成29年度から継続して同調査を行っている。

方式：マークシート式

時期：令和3年10月～11月中旬

回収率：回答者数393名/在籍者数399名 98.5%

II. 結果・考察

【結果】

- A0入試による入学者割合(49%)昨年度同様(昨年度本学(49%)、今年度全国(31%))
- 入学動機は昨年度とほぼ同様の傾向
 - 重視している項目(重視した+やや重視した)
 - ① 自分の興味があることや専門分野の内容が学べる(92%)
 - ② 就職するのに必要な資格が取れる(80%)
 - ③ キャンパスの雰囲気がよさそうだった(74%)
 - あまり重視していない項目(重視した+やや重視した)
 - ① 奨学金や学費免除などの経済的サポートがもらえる(34%)
 - ② 専門学校に行きたくなかった(36%)
 - ③ 4年制大学に編入することができる、高校の先生からのすすめ(46%)
- 授業内容の傾向

全国平均に比べて「キャリアに関する教育」「パソコンなど情報機器を使う」「宿題や課題」「定期的な小テスト」の項目が高く、昨年に引き続きオンライン授業が多かったため、これらの数字が伸びていると考えられる。その一方で、全国平均より低い結果となった項目は、「文献や資料を集める」「図書館を利用する」「授業をつまらなく感じた」等であった。

- 学習時間：全国平均と比して、授業に関する勉強に費やす時間は多いが、授業に関係ない学習に費やす時間は少ない傾向
- 教員と関わる機会：全国平均と比して、進路相談は多いが、学習や研究に関して関わる機会が少ない傾向
- 活動や体験：今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言の発出等があり、昨年度同様、全体的に活動割合が低くなっている。特に地域貢献・ボランティア活動への参加度は7%と昨年度（17%）に比べて10%減少した。この傾向は全国平均でも同じ傾向が見られる。
- 施設・サービス：全国平均と比して、ほぼ同等以上の満足度
- 教育：全国平均と比して、授業に関する満足度は高いが、サークルや部活に関しての満足度が低い。
- 能力や知識：概ね向上・増加したと実感しているが、リーダーシップや外国語を使う力、データなどの理解力、読解力に関しては過半数が向上していないと感じている
- 意識や関心：計画性・スケジュール管理、キャリア意識、自己理解などは向上しているが、地域や社会貢献への意識、選挙への関心は変化していないと感じている
- 進路希望：総合生活学科は「ビジネス・経営系」「アパレル・ファッション系」「美容系」「旅行・ホテル・ブライダル系」「建築・インテリア系」「医療・看護系」など多岐にわたり、食物栄養学科は「食・栄養系」80%、幼児教育学科は「保育・こども系」(90%)と各学科の特徴が表れている
- 総合評価：充実度(65%)、他の学生(71%)・教員(68%)・事務職員(59%)との関係、キャンパスの居心地(65%)、まなび（学習）(71%)については、総じて満足度が高い

【考察】

令和3年度の結果としては、昨年度とほぼ同等の結果となっている。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言が発出されるなど、学期途中でオンラインでの授業や学生サポートに切り替わることはあった。しかし、結果がほぼ例年どおりであることから、オンライン及び対面での授業、学生サービスにおいては一定の質を維持している結果であると窺える。

全国平均に比べて「パソコンなど情報機器を使う」「宿題や課題」「定期的な小テスト」等の項目が高いことから、学修支援システムとしての manaba、KISS システムや Zoom 等を併用しながら、教育活動において効果的に ICT 技術を活用していること、また、ICT 技術を活用できる学習環境が本学には整っていると捉えることができる。

さらに、全国平均より低い結果となった項目に、「授業をつまらなく感じた」があがっているが、これは、授業の改善及び工夫といった日頃の教員側の努力が影響していると考えられる。